九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

The effects of hostile intent attribution on intergroup relations

黄, 麗華

https://doi.org/10.15017/1806788

出版情報：九州大学, 2016, 博士（心理学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏　　名	黄　麗　華
論　文　名	The effects of hostile intent attribution on intergroup relations. （敵対意図の帰属が集団間関係に及ぼす効果）
論文調査委員	主査　九州大学　教授　山　口　裕　幸 副査　九州大学　教授　中　村　知　靖 副査　九州大学　准教授　池　田　　浩 副査　九州大学　講師　縄　田　健　悟

論文審査の結果の要旨

本論文は，外部集団のメンバーが自集団に対して批判的あるいは差別的言動を示す理由を、敵対意図(hostile intention)が外部集団内に集合的に存在することに帰属する認知行為が、集団間関係のダイナミクスに及ぼす影響について、社会心理学的観点から検討を行った研究成果をまとめたものである。世界各地で高まりを見せる集団間葛藤を念頭におき、その背景で働いている社会心理学的ダイナミズムを、個人の認知や感情のみならず、集合レベルの認知や感情との関係に着目した理論モデルを構築したうえで、精密な質問紙調査を国際的に繰り返し行い、データの比較分析によって、理論モデルの妥当性を実証的に検討することに取り組んだ。集合的な敵対意図の存在の認知と原因帰属を引き起こす文化社会的変数を明らかにしつつ、国家主義と愛国主義の相違をもたらす変数を同定し、集団間情動理論をベースとして、怒りや忌避感情が集団間関係に与える影響を明らかにした。これらの成果に基づいて、集団間の葛藤や紛争を抑制するための方途について検討し、実践的提言を試みている。現状の研究における限界と今後の課題も的確に認識されており、今後さらなる研究の発展が期待される。これらの研究の成果は、学会においても高く評価されており、研究テーマは心理学としての学術的価値の高さのみならず、集団間葛藤の効果的な提言マネジメントに有益な実践的提言につながるものとしても評価できる。よって，本論文は博士（心理学）の学位に値するものと認める。